とかち新聞
主筆 松山明
(発行所) 北海道足寄郡足寄町 とかち新聞社 電話1351番
本紙購読料 一部25円 一カ月75円 一カ年前納750円

五党の重点候補

七月に迫つた参議院選挙へ

参議院議員の半数改選の投票日は七月七日に予定されていますが、すでに与野党ともそれぞれ出馬の予定候補も確定して〝事前運動〟もたけなわといつたところです。

北海道地方区の場合は

◎自民党 西田信一（現）河口陽一（新）
◎社会党 吉田忠三郎（現）大矢 正（現）
◎民社党 望月武義（新）
◎共産党 五十嵐久弥（新）

の六氏のほかに諸派、無所属など数名参加するとしても、定員四名のところへ天下の自民党が三名を押えて野党第一党の社会党が二名だけの公認とあれば、自社両党がお互いにこの安全策をとるかぎりは民社、共産両党の進出は難しく自社四名による順位争いとみられています。

各党の選挙体制は、民社共産は一名づつなので地盤割はありませんが、自民の河口陽一氏は農民層にそれ以外を西田信一氏にと大まかにわけているのにたいして社会は道東一十勝は吉田つを頂戴という寸法で、自

全国区の場合は

◎社会党 小林 武（現）
◎公明党 藤原房雄（新）
◎共産党 岩間正男（現）

の三氏をそれぞれ北海道割当の重点候補としていますが、自民、民社の両党は特定の一人にしぼらずにそれぞれ業界、団体毎に複数の候補が入り乱れていますが本別、足寄、陸別三町の木材業界は自民の若林正武氏（新）に力を入れています

忠三郎氏一本にしています

雪印と農機具二工場が移転新設

県案であつた雪印乳業足寄工場の拡大製品工場化と足寄農機具工業のオートメ工場化は、それぞれ移転用地も確定していよいよ実現のはこびとなりました。

足寄農機具（安久津義人社長）の新設工場については本別、帯広、音更の各市町から用地提供誘致の動きがありましたが、このほど足寄太の国道と鉄道の中間

の所啓一氏の所有地約二㌶を買収して建設することになりました。

雪印乳業（中仙道忠雄工場長）の方は現在の工場用地が三㌶以上もあるのでこ

こでの増築は可能でしたが生産者団体がすでに下愛冠の道上清次郎氏の所有地二㌶を買収してここにホクレンがクーラーステーション（集乳施設）を建設することになつたので、町のあつせんによつてこの地つづきに移転して新工場を建設することになりました。

雪印としてはここを池北線の中心工場としてコナミルクの製造などが予定されているようですが、さしあたり用地の交換問題が先決となつています。

用地買収は七月以降に

白糠線鉄道

白糠線鉄道の足寄町側の着工は明年度からに予定されており、このために本年度中に足寄駅附近の足寄太から中足寄トラックにかけての用地買収を完了させることになつています。

鉄道建設公団の札幌工事事務所では目下細部の設計図作製にあたつており、二十日ごろに本年度の新線建設費予算の配分があるのでそれによつて用地買収に入ることになりますが、六月から会計検査院による前年度支出分の検査がおこなわれることになり、このために公団の担当者がそれに忙殺されるので、実際に買収交渉で現地に入るのは七月以降になるものとみられます。

公団の買収方法や価格について町の用地処理委員会（山岸喜一委員長）では昨年いらい道内各地の新線建設や鉄道拡巾工事の用地買収状況を調査したところによれば、本年三月に交渉がまとまつた足寄部落の反当十五万円から十八万円の買収価格は道内の畑地として最高だつたそうで、準宅地となればさらに相当な価格での買収実例もありますが要するにあとで会計検査院の検査にパスする価格でなければとのことだそうです

参議院運輸委員の吉田忠三郎氏（社会党）が四月二十三日に来町したので小林町長が白糠線着工促進の陳情をしたのにたいして同参議は『白糠線は白糠側と足寄側の両方から早く工事をすすめていつて奥地で合体させるようにと申し入れている、いつたん用地買収に手をつけるならダラダラしないで一挙にやるのでなければお互いにやりずらくなるのでテキパキとやるべきである』といつていました

二千万円にことしも四億

ことしの白糠線鉄道の建設費は昨年と同額の四億三千万円にこのほど決定しました。この内容は白糠町側の上茶路―三股間の路盤工事と明年の開業準備、足寄町側の用地買収などとなつています。

長岡一代交配の丈夫な苗
夏キャベツ
トマト
ナス
ナンバン
キュウリ
足寄町消防本部横
武藤野菜店
電話三五八番
足寄で生れた丈夫な金魚をお安く販売いたしております。

社説

それはなんのために！

（一）

うであつてもこの問題が未解決であるかぎりは依然として公用廃止地問題―それはもう足寄町民にとつては聞きあきた、耳にするだけでもウンザリするような、八年がかりの町政上の難問題であつて、いまさらこれをもち出されても真つ御免を蒙りたいという問題であるのかもしれません。しかしそうであつてもこの問題が未解決であるかぎりは依然として今日的な問題としてとりあげざるを得ない問題であります。

（二）

公用廃止地問題―それは高橋前町長が『死んでも自分の手で解決したい』と町議会で言明していたほどの問題で、高橋氏が三選に敗れた理由はほかにも決していたのであればおそらくこの問題が処理できずに対内的には関係住民との対立紛争の連続、対外的には関係諸官公庁にたいする信用の失ついという、ドロヌマ状態の町政にたいして町民の審判がくだされたものでもあります。

（三）

公用廃止地問題―もし高橋前町長がこれを首尾よく解決できていたのであればおそらくその三選は可能であつたろうし、小林弘道氏も敗えて町長選に打つて出ることはなかつた筈であり、この問題が未解決の現状を見るに忍びず登場した小林町長であるからには、それ決のメドがつくのか見当がつかない現状とあつては、これではなんのために町長にこそなにをさておいてもこの問題にガッチリととりくむべきかということ

（四）

公用廃止地問題―といつてもいろいろあるかのように取り扱つているかぎりは、小林町政もいつたん用地買収に手をつけるならダラダラしないで一挙にやるのでなければお互いにやりずらくなるのでテキパキとやるべきにこれ従え、これに協力してもらえない関係住民は〝悪者〟であるかのように取り扱つてはイそうはゆかなくなつていることで、国や道ではずでこの実情を理解して自治体内のことは自治体が自主的にとしていますが、もつとも問題を理解していないのがかんじんの地元であつて、関係住民の生活とその権利にかかわる基本的な問題をそつちのけにしての理事者や議会であるのかもしれません。

（五）

公用廃止地問題―といつてみたところで実態は一種の〝小作争議〟であつて、関係住民が勝手に町有地に入つても依然として問題は一歩も半歩も前進のきざしがみられず、いつになつたら解決のメドがつくのか見当が道の許可をうけて使用していた土地をダマしとるようにして町有地にして町が権利をよりまわして町の計画

（六）

問題は都市計画以前の問題であつて、関係住民の生活の理事者や議会であるのかもしれません。

上野カメラ堂
カメラ
八ミリ
写真材料
上野 復興
足寄駅通り T四二〇

不動産についての御相談は
調査、売買、あつせん、管理、分譲
代行、登記、損害保険代理まで
同和、興和火災保険代理
北海道免許十26号
足寄不動産事務所
足寄町本通り三丁目 T三四五

近代住宅に新建材！
家具 建具 製造 各種サッシ施工
各種建築資材
新築 改築に御相談下さい！
桜井建具店
足寄町北五区 電話362番

技術に生きる！
テレビ
ラジオ
ステレオ
レコード
世界の ビクター
HIS MASTER'S VOICE
あらゆる電気器具
有限会社 ミネデンキ
足寄劇場前 電話142番